

鶴巻	<p>初めての土地柄でもあり、久々に公民館ということで、あっという間に過ぎたなという感じでおります。</p> <p>また、委員の皆さまには運営審議会での審議やご意見のみならず、いくつかの公民館事業等にご参加いただくなどご協力いただきありがとうございました。今年度も引き続きご支援賜りますようよろしくお願いいたします。</p> <p>これから議題に沿って、限られた時間の中で審議していきますが、入る前に一点ご報告がございます。</p> <p>本日、塚田委員がこちらに向かっているということですが、9 名の委員の方からご出席していただいておりますが、昨年委員をさせていただいた坂上さんですが、今回、皆さまにご案内させていただいた折に、ご本人から、一身上の都合により、委員を辞退したいというお話があり、中央公民館と相談しまして辞退を受理することとしました。本来であれば代わりの方から本日ご出席いただければ一番よかったのですが、何分ご案内した時に分かったというかたちでして、本日は欠委のまま委員会を開催させていただくこととなりましたことをお詫び申し上げます。また第 5 期のあと任期が 1 年であることを踏まえて、その欠員については今後、中央公民館と協議していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、本日の会議には、昨年委員でありました遠藤委員にかわり、4 月から亀田中学校に着任されました森校長先生から引き続き委員をしていただくことを了承いただき、本日出席していただいております。森先生ありがとうございます。後ほど、今年度最初の運審でもありますので、自己紹介をいただくことを予告させていただきまして、簡単ではありますが私の挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。</p>
澤口	続きまして、石澤議長より挨拶をお願いいたします。
石澤	<p>お忙しいところご出席いただきありがとうございます。</p> <p>初対面の方もいらっしゃいますので、後で自己紹介という事でございますけど、皆さまから活発なご審議をお願いしまして、簡単ですけども挨拶といたします。よろしくお願いいたします。</p>
澤口	<p>ありがとうございました。では引き続きまして、今年度 1 回目の運営審議会ということで、かわられた委員の方もいらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと思います。では、ご挨拶いただきましたけど、議長から時計まわりでお願いします。</p>
石澤	<p>石澤正明といたします。亀田地区の早通というところに住んでおります。よろしくお願いいたします。</p>

森	皆さん、こんにちは。亀田中学校校長 森知之と申します。この 4 月に秋葉区新津第二中学校からまいりました。よろしくお願いいたします。
石田	こんにちは。亀田東小学校 石田正文と申します。2 年目になりました。よろしくお願いいたします。
大沢	横越の大沢と申します。横越中学校の地域教育を担当しております。よろしくお願いいたします。
小見	ごめんください。私、江南区の小中学校PTA連合会、在籍は丸山小学校のPTA会長ですが、小見直樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
田村	田村智江です。コミュニティコーディネーターをしております。2 年目になります。
横木	横木春生と申します。両川地区の青少年育成協議会の会長で、今年 2 年目です。よろしくお願いいたします。
塚田	塚田美智子と申します。今日は遅れてきまして申し訳ありません。曾野木地区の方から出させていただき、引き続きお世話になります。よろしくお願いいたします。
山倉	大江山地区で青少年育成協議会の会長をしております、山倉と申します。よろしくお願いいたします。
澤口	ありがとうございました。それでは会議に入りたいと思います。議長さん、進行よろしくお願いいたします。
石澤	議長を務めさせていただきます、石澤です。よろしくお願いいたします。 それでは議題に従いまして、進行させていただきます。 (1) 平成27年度江南区公民館事業について、各公民館から事業実績報告ならびに事業評価、お願いします。
靄巻	改めまして亀田地区公民館の靄巻です。説明に入る前に一点、資料の修正が分かりましたので修正いただきたいと思います。皆さんにお渡ししました次第の下に 名簿があったかと思いますが、大変申し訳なかったんですが、ご挨拶いただきました森校長先生の性別のところが、大変申し訳ございません。気づけばよかったです、先ほど先生からご指摘いただきまして、申し訳ございません。皆さん、どうか、修正の方お願いしたいと思います。今のところ、間違いの修正点はそこだけです、これから説明をさせていただきたいと思います。 限られた時間なので、昨年 12 月に一度経過報告させていただいておりますので、それを踏まえてざっくりですが昨年度の事業の報告をさせていただきたいと思います。

お手元の方に配布しました、平成27年度公民館事業報告というものをご覧いただけますでしょうか。3枚綴りになってるかと思いますが、亀田地区公民館、大江山公民館が1枚、曾野木地区公民館、両川公民館が1枚、そして最後に横越公民館というふうに綴らせていただいております。

亀田地区公民館大江山公民館合わせて、昨年度なんですけど、事業数でいきますと32事業行いました。回数でいきますと419回実施したところでございます。

参加者の数ですが、延べ人数では両館合わせて11,760人の方に講座にご参加いただいたという結果となりました。そのうち亀田地区公民館分が10,310人、大江山公民館が1,450人のご参加がありました。また各事業を見てみると、定員を定めないものは除きまして、定員を定めたものについて定員を超えていたものが3つございました。

また、昨年、1番右側の方に連携共催事業というかたちで共催連携した団体等について伝えさせていただいておりますが、1番目の「地域コミュニティ活動活性化支援事業」といたしまして、「お亀楽縁」というものを市民会館を会場に通年で行っております。これはかれこれ5・6年事業として継続しておりますが、江南区社会福祉協議会と連携し行っているものでございます。

また2番目、「学・社・民の融合による人づくり、地域づくりの推進事業」の中では、育成協の事務局を公民館がやっている関係もあるんですけど、そちらの方と連携、また江南区のPTA連絡協議会とも連携して講演会を1度開催しております。

3番目の「家庭の教育力の向上を支援する事業」なんですけど、公民館の事業の中で中心的な事業になっております。亀田地区公民館で14事業、大江山公民館で

1事業が該当しております、事業数だけでいきますと、この分野だけで15事業行っているというかたちになります。

母子分離の「親子家庭教育学級」はもとより、15番目16番目17番目18番、それと大江山公民館の方の3番目ですが、地域のコミ協さんの協力を得まして、「おはよう朝ごはん」の事業を行っているところでございます。

青少年事業としましては、中高生それと小中学生等を含めて夏休みの学習室を開催したり、単独事業としては「子ども体験事業」を夏休み冬休み春休みと、子どもたちが長期休みに入る期間を利用して体験講座を実施したところでございます。

高齢者向けの支援事業といたしましては、旧亀田町時代から40年以上続いている「福寿大学」についての支援を継続的に行いました。

その他の分野については、「芸術セミナー」をはじめ「陶芸講座」、「公民館まつり」、「音楽祭」、「市民文化展」、計五つの事業を亀田地区公民館で実施したところでございます。

大江山公民館では、地域コミュニティ支援事業をはじめ全部で5事業を実施したところで

ございます。

今見ていただいた事業報告とは別に、今日お配りしました平成 27 年度事業評価シートの綴りの方ご覧いただけますでしょうか。

それぞれ先ほど申し上げました 32 の事業についてそれぞれ担当等が事業が終了した後、事業の評価シートをつけております。重点事業名でいいますと一番上の「地域コミュニティ活性化を支援する事業」、それから「学・社・民融合」全部で 6 の項目の中で事業をやってきたところがございます。今ほど個々に説明したものがすべてこの分野に入ってきているものです。亀田地区公民館でやった事業、大江山公民館を含めてなんです、地域コミュニティの支援事業としましては、「ねらい」の下に「成果」という項目がございますが、「企画委員の希望者数」これは講座終了後に企画委員を希望された方がいるかないかということですが、企画委員を希望された方がいるというかたちになりますと、これは昨年度の実績ですので、今年度の事業計画と一緒に参加し組み立てていく、それにご協力いただいている方がいると、「希望した」という状況になります。これは「お亀楽縁」という事業の方で 2 名手を挙げていただいたというところがございます。

また「地域コミュニティの活性化を支援」の中でですが、昨年度大江山の方で地域学のサークルが立ち上がりました。今後地域活性化に繋げる原型が必要となることから、今年度も引き続き支援していく体制が必要じゃないかと思っております。

2 番目の「学・社・民の融合」のところなんです、先ほども申し上げましたが、事業としては育成協の支援にまわっているものがございます。

下から3つ目「改善点」という枠がございます。現在、育成協の事務局を公民館が行っている弊害なのか、主体的な事業の企画・実施が行われているとは言い難く、若い委員の意見が反映されない状況にあらうかなと思っております。

今後、運営体制を見直す等、役員・地域等が役割分担を明確にしながら連携していく必要があるのではないかなと、昨年から育成協の方、携わっていて感ずるところでございます。

3 番目の「家庭教育の向上」については、成果の部分では事業終了後参加者の皆さんがサークルを結成したものが 3 団体ございます。0 歳児対象の「ゆりかご」が 2 つのサークル、思春期の年代期が 1 つのサークルとして立ち上がりました。「企画委員の希望者数」についても、幼児期で 5 名、児童期で 1 名、思春期で 5 名合わせますと 11 名の方から企画委員に手を挙げていただいたということで、今年度の事業についてもその方たちの意見を反映しながらやっていきたいというふうに思っております。

なお、下から 2 番目の欄に「館長評価」というところがございますが、その部分で上の方に「A・B・C・D」というアルファベットがあるかと思います。これについては一番下段の評価区分のところを表しております、「A」が「事業を拡大・継続していくもの」、「B」については「現行どおり、見直し等を含む」、「C」については「事業の縮小」、「D」については「事業の廃止」ということになっております。亀田地区公民館をみますと、現行どおり見直しを含めます

	<p>が、実施していくものが 15 事業、「C」の事業を縮小していくものが 2 事業、「D」廃止するものが 1 事業という判断をさせていただきました。</p> <p>「D」に当たるものなんですが 27 年度に実施した事業のうち、先ほどの事業報告によりますと 15 番「おはよう朝ごはん」の料理講習会ですが、亀田西小学校のコミ協さんの方から昨年度終了の時から事業のほうは実施しないという意向を伝えられておりましたので、今年度は廃止となります。</p> <p>「C」に二つ入っておりますが、これは思春期と児童期についての見直し、事業縮小ということになります。昨年度、児童期・家庭教育学級の特別編として 3 月に女子教育大学の赤坂先生を迎えての講演会を実施しました。多くの方からご参加いただいたところなんですが今年度その講演会については 1 事業として実施しないということ。あと思春期については若干、事業のやり方を見直すというかたちで実施していきたいと。今までですと、5 回コース、4 回コースの中で講座を組んでたんですが、そのあり方については少し検討しながら実施したいということで「C」評価とさせていただきました。亀田地区公民館の事業の実績、事業評価については以上でございます。</p>
石澤	引き続きお願いします。
宮川	<p>曾野木地区の 27 年度の開催事業は 22、両川の方は 3、曾野木の参加者数は 4,557 人、延べ参加者数 5,487 人、両川は参加者数が 284 人、延べ参加者数 301 人でございます。</p> <p>事業の方は、前回お話ししましたので、今回変わったところだけお話しさせていただきますが、3 番の「ふれあいスクール」は中止になっております。初心者のパソコン教室を実施する予定でございましたが、教育コーディネーターと話をしてパソコンの場所が使えなかったりして、中止にさせていただきました。21 番のボランティア研修会でございますが、連携している曾野木七味の会と協議した結果今年度から中止ということで来年以降もこの事業は中止にさせていただきます。</p> <p>10 番「そのキッズ」の方ですけども、3 月に「子どもおたのしみパーティー」ということで、今回初めて東曾野木小学校の子どもを対象にして 3 月に料理教室と折り紙による「ポンポン相撲」をさせてもらって大盛況でございました。あと春休みの子ども映写会、これは 8 月夏休みにやったものの 3 月春休みバージョンでございます。</p> <p>両川の方も、夏休みに「子ども映写会」ということで開催いたしました。</p>
石澤	続いて事業評価の方は。
樋口	<p>曾野木地区公民館ですけども、事業評価シートのご説明させていただきます。「地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業」ですけども、これは「まなびやサロンそのき」という今年も継続してやっている事業があるんですけど、評価できるのは、公民館の職員だけではなく地域のいろんな方々が入っているんですね。公民館の活動協力さんにはもちろん入っていただけてますけど、地域の普通の人、学校の教育コーディネーターさん、大勢の人が絡んでる事業になってまして、主体性をもって地域の人たちが年間の事業を計画して、さらに企画委員も毎回やってくださっている。その成果としてはやはり地域の人が主体的に関</p>

っているものですから参加者も非常に多くて、参加した人はかなり満足してくれているという事業になってます。本年度も現行通り見直しを含めながら開催して、すでに4・5・6と3回終了しているところで、今年度事業のところでもたまたまご説明させていただきますけども、今年度これから始まる事業もチラシとして皆さんにご紹介しておきますので、ぜひ参加していただけたらありがたいなと思ってます。

そしてもう一つの活性化を支援する事業の中には「地域学」というのが去年あったんですけども、この地域学がちょうど各館3年ごとで交代している事業になっていまして、それで去年で3年目を迎えて、今年度は地域学が横越地区公民館にうつっております。うちでやったのが、鈴木ヨネワカさんを地域の宝ということで取り上げさせていただいたので、これにつきましては終了いたしましたけども、学んだ人が「地域にこういう人がいたんだよ。」ということを含めて今いる子どもたち、分からない人たちに伝えていただくということで、終了した一つの事業となっております。「学・社・民」はうちの事業としましては「ふれあいスクール」、先ほどうちの宮川が話しましたように「初心者パソコン教室」を学校のパソコンをお借りして開催する予定でいたんですけども、中学校、小学校ともそれぞれお話をさせていただいたんですけども、パソコンをお借りすることが難しいという状況で学校との連携をとることができなくて、中止とさせていただきます。

曾野木地区の青少年健全育成協議会と「曾野木地区青少年育成大会」を一緒に開催させていただきました。今年度は中学生が中心になって、中学生が38人参加してくれて、小学生も30人近く集まってくれて、1日だったんですけども、大会を開かせていただいて、スマホの正しい使い方を県の若槻先生からお話をいただいて、それに対して子どもたちはどういう思いでいるのか、地域の大人はどうなのか、それぞれお互いの言い分をそこでぶつけ合って話し合いをいたしました。とても実りのある大会だったと思っております。今年も同じような形で開催できればいいなと、今から計画を育成協議会と立てているところでございます。

3番の「家庭の教育力の向上を支援する事業」なんですけども、これは乳児をおもちの親を対象にした「ゆりかご学級」、幼児をおもちの親を対象にした「幼児期家庭教育学級」、あとはうちの場合「子育てサロンぽっかぽか」というのがあって親子で自由に参加できるものなんですけど、あまり人数が多くないので誰でも参加できるものなんですけど、「ゆりかご学級」「幼児期」に関しては毎回定員を超える応募をいただいている、参加したいという人を全員受け入れてあげられないのが悩みの種でして、それを受け入れるには予算が必要になるといことで、なんとかして予算を増やしていただけないかと思っている次第です。でもこの参加者の満足度は高いです、100パーセントです。それを思うとなおさら事業を大切にしていきたいという気持ちがいっぱいです。

「青少年の生きる力」については、参加の子どもたちの一口感想を見ても、満足してくれているので、今年度も子どもたちを楽しませるような事業を計画していきたいと思っております。

5番の「高齢者の学習や社会参加を支援する事業」、新潟市が奨励している総おどり体操

を9月に3回開催しました。9月に開催したというのは、去年の9月、3連休に、総おどり体操をつくってくださったパパイヤ鈴木さんがいらして一緒に踊るというイベントが万代で行われたんです。それに「参加したいから、総おどり体操をやってほしい。」という希望がありまして、短い期間だったんですけど3回開催しまして、皆さんに喜んでいただいたんですけど、9月終わった後、「自主グループになって、これからも総おどり体操をみんなで毎日やっていきませんか？」と声掛けしたんですけども、なかなか引っぱっていき人がいなくて自主グループにならなかったんです。ところが12月にはいって「またやりたいから、前に総おどり体操に参加した人に連絡をとってもらえませんか。」と言われまして、連絡をとりましたところ、1月から自主グループとして活動することになって、今も毎月第2・第4木曜日午後1時半から開催しております。よろしかったらぜひ会員になっていただければありがたいと思っております。常に会員を募集しております。今現在の会員は22・3人集まりました。総おどり体操とレクリエーションダンスを楽しくやっています、今年度も継続してやっていければなと思っていましたけれども、評価のところでは事業廃止ということになりました。

「課題を探り解決を支援する事業」の中には「そのき市民学級」と女性セミナーというのが入ってまして、去年は「そのき市民学級」は定員100人のところ86人くらいの参加だったんですが、毎回60人前後の方が参加してくれて、かなり満足していただけたと思っております。

そして女性セミナーなんですけども、去年はたくさんの方に参加していただいて、これを見ていただけたらわかるんですけども、募集は30人だったんですけど保育の関係で27人ということになってます。この良いところは、企画委員さんがすごく熱心で、たった4人しかいない企画委員さんなんですけども、当日の司会進行からすべて企画委員で運営しているということが評価できる場所であると考えてます。「女性セミナー」を考える上で男性を無視できないだろうということで、28年から名前を「共生セミナー」と変えて今年度も続けていくことになっております。タイムリーな話題を取り上げて市民と協働しながら学習を組み立てていくことは評価できるということで、ぜひ自主グループ化して、曾野木の自主グループを増やしていきたいと考えております。

全体的にみて、どの講座も参加者の満足度が高かったので私たち職員も満足しているところですよ。以上です。

服部

横越公民館の服部でございます。3枚目になりますが、このとおりなので、特に皆さまの方にお伝えした方が良いという部分を担当から確認してきましたので、お話をさせていただきたいと思っております。

最初の「地域学講座」というところで、横越に伝わる昔話を残していきたい、伝えるということだけではなく、郷土を知るとか、知ることによって郷土というものに愛着をもっていただくことに繋がっていくのではないかと考えておりますが、そんなことをふまえて、2月3月と4回にわたりまして、幸運に横越地区公民館で活動されてます「語り部サークル」の協力を全面的にいただきまして、子どもさんにそういう機会を設けて楽しんでいただくというところ

からはいついていていただきたいと思っております。とはいえ、子どもさんそのものの参加はそう多くはないのですが、熱心に毎回休まずに来まして、今年度に入りましても休まずに参加してくれている状況です。非常にこれからの楽しみだなと思っております。

2番目の「コミュニティコーディネーター養成講座」27年度から、亀田地区公民館から私どもの方に移ってきた講座でして、初年度ですので事業そのものというより「コミュニティとは何ぞや？」というところから入りたいなと思ひまして、東大の牧野先生から、コミュニティ関係にはお詳しく、ある意味、日本の第一人者というふうになるのかなと思っております。新潟にも何度か足を運んでいただいている方をお願いいたしまして、基礎的な講座を開かせていただきました。当初40人を予定してたんですけども、地元のコミュニティ協議会とも連携させていただきまして、最終的には45人。用意した部屋が窮屈だったかなと思っているところで

それから7番の「乳児期家庭教育学級」、「ゆりかご」の3期ということになるんですけども、他の公民館でもやっているのかなと思ってるんですけど、最後の方に先輩ママ、要するに前年度受講された方から子育てのあり様みたいなものを直接聞かせていただくような機会を設けてまして、「1年たつとこうなのかなという実感をもって先輩のお話を聞いた。」ということで非常に良かったという反応がありました。

それから12番「子ども体験活動」でございます。これは例年夏休み冬休みをとらえて、子どもさんたちに集まってもらい、ゲームを含めていろんな活動を体験していただくという事業です。特に、開催月に10月というのがありまして、夏休み冬休みではないんですけど、横越の農協の前の交差点のところに地下道がございます。従来から、子どもたちそして学校の先生方とタイアップしていただきまして、清掃活動を半日行っているんですけど、これは今年度の活動でまた改めてお話をさせていただきますけど、活動がかなり盛んになってきましたので、28年度からは別一事業として分けて展開させていただく考えでおりますが、今までは「子ども体験活動」の一つとして子の中に含めてまいりました。

開催月8月10月12月とありますが、12月の募集をかけたところ非常に多くの参加がありまして。子どもたち、泣くんですね、参加できないと言われると。どうしても調理室の関係があって1回の定員は守らざる負えないものですから、泣かれるのもつらいので、1月5日に急きょ外れた子を対象にして、15人くらいだったでしょうかね、同じプログラムでやらせていただいたということで、1月とは明記されていませんが12月分ということで数的にはこの中に含まれているということです。

「春休み子どもの映写会」とありますが、今まで小さい部屋で小さいスクリーンでプロジェクターで映像とばしてやってたんですけど、春休みからホールの方で壁が白いもんですからスクリーンを使わずに、映画館のような大きさ、少なくともスクリーンよりは大きく投影させていただいて、かつホールの音響設備を使いました。そんなこともあって大好評だったと担当から聞いております。

最後18番「文化講座」でございます。これも毎年大きなテーマで実施はしているんですけども、できればこの講座受講した方が残られて一つのサークル化に繋がっていければと考



えて実施しているものでございます。昨年度は「アロマで快適生活を」ということでいろんな匂い、香りといいますか、そういったものを利用してより快適な生活の一助に、というようなことも結構盛んになってきているようですが、それをテーマにして講座を開きました。27年度についてはサークル化には繋がりませんでしたけど、28年度もそんなことを目指して開催していきたいと考えているところです。

私の方からは以上でございます。評価シートに関しては館長からお願いします。

池田

横越公民館の池田と申します。よろしく申し上げます。服部の方から詳しい説明をしましたので、私はそれ以外のことで話したいと思います。

事業評価の1番「地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業」というところで、横越地区独自の「地区公民館補助金制度」というのが今年まであったんです。地区の公民館に補助金を渡して事業をやってもらってるというものなんですけど、それが今年で廃止になって今年度は補助金がなくなりました。最後だったんですけど、補助金がなくなっても事業を継続してやりたいということで、お互い連携を深めてやりましょうということで、現在一つの事業は、ちょっと参加団体少なかったですけど、実施されました。「地域学」ということで、横越地区には昔話しが150近く残ってます。それだけ残ってるという所は非常に珍しく、横越の町時代に本にまとめて、その後にもまた自主グループが本を作ったんですよね。ただ、本と語りは違うんですよね。昨年度は「昔話語りサークル」というところから語っていただいて、地域の人たちから聞いていただきました。将来的には語り部を養成したいということで、皆さんからお話をいただきました。田村委員にも来てもらいましたし、大澤さんからも来ていただきました。今年度にはいって語り部、募集をかけさせていただきまして、小学校の子どもが3人、一般成人の方が1人非常に興味を持って「ぜひやりたい。」ということで。

「学・社・民の融合」に関しての事業なんですけど、27年度は地下道清掃をやってる、これに関しては小中学生、学校の先生、それと地域の人も協力して、普段通学に使ってる地下道をきれいにしようということで、年1回ですけども非常にきれいにさせていただいてます。来年度は「学・社・民の融合事業」ということで、そちらに振り分けてやりたいなと思ってます。

「家庭教育学級を支援する事業」に関しては4事業、子育て広場が1つやってます。家庭教育学級に関しては満足度が非常に高いですし、「ゆりかご学級」「幼児期」に関してもグループが1グループずつできてます。企画委員も来年度に関して応募の方がいらっしゃると思います、10人くらい。

家庭教育学級はどこの公民館も保育付きということに関して、保育は非常にお金がかかるんですよね。そうすると募集人数以上に応募されるんですけど、どうしても断らなければならぬ現状があるんですよ。保育室のスペースもあるんですけど、保育者の謝礼。今現状、予算がそんなに増える状況じゃないんで、そこを拡大するというのは非常に難しい、現状維持するくらいで。現状維持すると事業を減らさないといけない状況です。

商売にはならない事業なんで、公民館としてはずっとやっていきたいなと思ってます。

青少年に関しては、夏休み冬休みにやってるんですけど、これも満足度は高いです。ここに93パーセントと書いてありますし、活動協力員の方から協力を得たり地域の方から協力を得たりしてやっております。公民館がやる限りは、学校で体験できないような事業を子どもたちに体験してほしいということでいろいろ考えながらやってます。特に地域住民を講師に招いたりということで取り組んでいきたいなと思ってます。

「高齢者の学習や社会参加を支援する事業」は「いきいきセミナー」ということで他の公民館と違う形態の事業なんですね。普通だったらプログラムができて、募集をしてスタートなんですけど。その前に企画委員がいて、1回目に何をやりたいかを話し合っってプログラムを作っていくということで、職員は大変なんです。すぐに講師交渉に入らなきゃいけないんで、時間が短くて大変な事業ですけど、満足度が高い事業です。

ただやはり、遊びだけじゃなくて学んでほしいという面もあるんで、そこをちょっと変えていきたいなと思っています。

「現代的課題を探り、解決を支援する事業」のところは「女性セミナー」、「ヘルシークッキング」、「文化講座」になってますが、「ヘルシークッキング」というのは男性料理だったんですよ。前。男性料理、何年間も続けてきて、もうグループもできてるし募集しても人数が集まらないということで、「女性もOKですよ。」ということで、せつかくの予算でするので集まってもらいました。男性の方が2名参加していただいて。自主グループを作りたいという声があったんですけど、自主グループを作るという最初の計画がなかったんで、「来年度またやりますので、来年度自主グループになってくださいね。」とお話しました。

「女性セミナー」に関しては非常に満足度が高いです。ただし、これも保育付きの事業のために定員が決まってくるんですよ。それが問題で、多く学んでほしいというのはあるんですけど。

それと一つね、公民館って、ただ講座に参加して帰ってもらうというだけじゃなくて、当番の仕事があったり、企画委員の人はこういう仕事が、ってあったり、それに対しての不満が、「何で私こんなことしなきゃいけないの？」っていう話があって、そのところ企画委員と職員との間で話し合いを持ちながら。公民館は実能力のある市民を育てなきゃいけないということで、「自分たちでやってくださいね。」って言うんだけども分かってもらえない部分があって、なんとか話し合っって、みんなで楽しく受講できるようにということで職員は話しております。

以上ですが、よろしくお願ひします。

石澤

はい、ありがとうございました。

江南区の3つの公民館からそれぞれ説明があったんですが、これにつきましてご意見あるいはご質問がございましたら、よろしくお願ひいたします。

田村

まず、コミュニティコーディネーターですので、横越の「コミュニティコーディネーター養成講座」ですけども、募集人員40人でしたけど、東大の先生をお呼びするんでしたら、もっと

	<p>会場を大きくして、参加する人を増やさなかったのかと。コーディネーターの人、何人も知ってるんですが、声がかからないと。公募しませんでしたよね。</p>
服部	<p>横越地区内の講座なんで。</p>
田村	<p>う〜んと、そういう考えなんでしょうかね。横越のコミュニティコーディネーターを養成するんじゃないかと、江南区全体の、じゃないんですか。</p>
服部	<p>横越地区のコーディネーター養成講座ということで、</p>
田村	<p>江南区の、じゃない。</p>
服部	<p>亀田の時は亀田地区公民館、が基幹公民館だから全体をみるというのはあるんですが、横越の場合、横越地区ということで考えてるから。</p>
田村	<p>でも、もったいないですよ。こういう講座は受けられないってことになるんじゃないでしょうかね。</p>
服部	<p>横越地区の人を主体に考えてる講座なんです。横越地区のコミュニティコーディネーター養成講座ということで予算が付いてる事業なんです。亀田の場合は江南区としてできるけど横越地区公民館としてうちの地区で公民館でやらなきゃいけないことになってるんです。</p>
田村	<p>横越地区が終わると何年かして他の地区にまわってくると。</p>
服部	<p>だから、亀田地区公民館でやられたものがうちの所来なんで。</p>
田村	<p>横越が終わると、たとえば曾野木とか。その間、空白ができて。動いてるのはいいんですけど、オープンにして、参加したい人がいろいろ参加できるようなシステムにしてほしいなという。横越地区にいる人にも何人か聞いたんですけど、「そういう講座あるの、知らない。」というようなお声も聞いたんですよ。どういう声掛けしたのかなというのがちょっと分からなくて。</p>
服部	<p>第一にご案内したのはコミュニティ協議会です。コミュニティに関わる場所にポジションのない人が例えばこれを受講したからといって、無という意味はないですけども、実際の活動としてはコミュニティ協議会にいて活動するというのが基本的なねらいですのでね。</p>
田村	<p>そうなんでしょうかね</p>
服部	<p>はい。当然だと思います。</p>
田村	<p>私は大江山コミュニティ協議会に入ってますけど、亀田で受講した時には入ってなかった</p>

	<p>んですよ、実は。でも、コーディネーター養成講座ですからコミュニティ協議会に入っていようがいまいが、コミュニティですから。「講座に参加したい人はどうぞ。」ということで。いろいろ活動させてもらってますけど、そういうズレが非常にあるなというのを感じたんですね。</p>
服部	<p>私が前にいた公民館でも当然そういうかたちで行ってきました。</p>
田村	<p>でも、ま、公民館は教育ですから、誰にでもオープンに、やっぱり。</p>
服部	<p>情報を知って参加したいという人まで断ることまでしませんけども、第一次的に考えるのはコミュニティ協議会の方々を「勉強しましょうよ。」と呼びかけてる。</p>
田村	<p>「前回逃したんだけど今回参加したいな。」という方たちも、オープンにして。コミュニティコーディネーターっていうのは、横越だけっていうのじゃなくて、もっとオープンでこの講座を開いてほしいなっていう要望というか。</p>
服部	<p>コミュニティ協議会を対象にしたっていうのは、コミュニティ協議会と積極的に協力し合っ てやっていこうということでやったんですよ。聞きつけて、申し込んだ人にはいいですよ。 だから公民館の職員の人も来てたし。公民館の考えとしては、横越地区のコミュニティ協議 会を育てていこうということで考えているから、その違いがあると思うんですよ。</p>
田村	<p>例えば私が今年の勉強したいから講座受けたいなと言った場合はシャットアウトなんで すか。</p>
池田	<p>何の？うちの所のコミュニティ協議会をなんとか育てていこうということでやってるわけだ から、そこちょっと違うんですよ、視点が。横越地区のコミ協と実際やっていこうとしてるわけ ですよ。亀田の場合はオープンにしているんな人を集めてコーディネーターを養成していこう というような講座をもっていたし、横越地区公民館の場合には横越地区のコミ協ってある んですよ。その人たちの活性化をしていこうという考えでやっているから、その視点が ちょっと違うんです。</p>
田村	<p>分かりますよ。分かりますけど、それでいいのかなっていうのが私の感想です。</p>
池田	<p>それで、うちの公民館についての予算って、横越の地域住民を対象にしてやってください っていう、全体を見てやってくださいっていう予算じゃないから、うちの所は横越地区を対象 にしてる。</p>
横木	<p>私は両川で、今言ったコミ協っていうのは全部の地区でやってるんですよ。全部のコミ協 と連携をとるとか、周りの人も地区外の人も入れてやるとかね。そうしないと両川なんて無 いじゃないですか。その地域だけ良ければいいなんてわけにはいかないんだから。</p>
田村	<p>公民館の基本的な姿勢ってそうじゃないかなって私は思うんですけど。</p>

池田	<p>横越地区住民を対象にした講座をやるっていうことで、ただ、募集を見て、横越地区に住んでなくても応募されても受けてます。ただし、横越地区の住民を対象にした地区公民館なんですよ、うちの所は。だから、市を全体にして他の地域も含めてやるっていう条件にはなっていないです。</p>
塚田	<p>私も言ってもいいですか。</p> <p>とてもよく分かります。ただ、両川さん大江山さん無いので、そういうことあると「ん？」って思っちゃうの本心です。「じゃ、作ってよ。」って、「大江山対象にしたのを作ってよ。」いつも心のどこかにありながらここに出ています。そういうことを言われると、意地悪な感じになっちゃいます。</p>
池田	<p>公民館がどこの分館を担当してるってことになります。担当してるところがやらなきゃだめなんです。うちの所には分館は無いんで、私、曾野木にいた時は両川っていう分館があったんで両方やらなきゃダメなんですけど、横越は横越一つなんで、その地域をとということで一生懸命するわけですよ。そういう公民館が主公民館というかたちで市内全体にあって、地域を活性化していこうということでやっているわけですよ。</p>
横木	<p>それもよく分かりますけど、今言ったコミ協みたいなものはそうではないだろうということなんですよ。</p>
池田	<p>今回 27 年度は、うちの方の考えは、うちの地区のコミ協を活性化したいと考えて事業したわけですよ。そのための事業なんで、他の人のことを考えてやった事業じゃないんですよ。目的はそこに絞ってやっているの。最初から全体的にということだと、ちょっと変わってくるんですよ。</p>
塚田	<p>もしそれが、皆さんのパイプ役になって一つになろうというのであれば、亀田の公民館が手を挙げて、皆さんに声かけて、やっていくっていうのが一つあるかもしれませんね。</p>